

## ナゴヤをつなげる 30人 第2期 Day5 レポート ～最終発表に向けてプロジェクト実行の道筋を描く～

2020年12月9日、名古屋市スポーツ市民局地域振興課主催の「ナゴヤをつなげる 30人」第2期のDay5が開催されました。

企業、NPO、大学、行政など、多様なセクターから集った有志が、ナゴヤをより良くするための協働のアイデアを出し合い、まちの人たちを巻き込む対話を起こしながら、その実現の道を模索していくこのプログラム。7つのチームがそれぞれの課題意識のもと、プロジェクトの構想を進めています。

Day4では、各チームがゲストをお招きして対話の場を開くオープンセッションを開催しました。どのチームも活発な情報や意見が飛び交い、たくさんの気づきを得る場となりました。そんなオープンセッションを受けてのDay5は、いよいよ年明けの最終発表に向けて、事業構想を固める段階に。さらに、グループの垣根をこえたコラボレーションのアイデアも出されます。議論の様子をご紹介します。

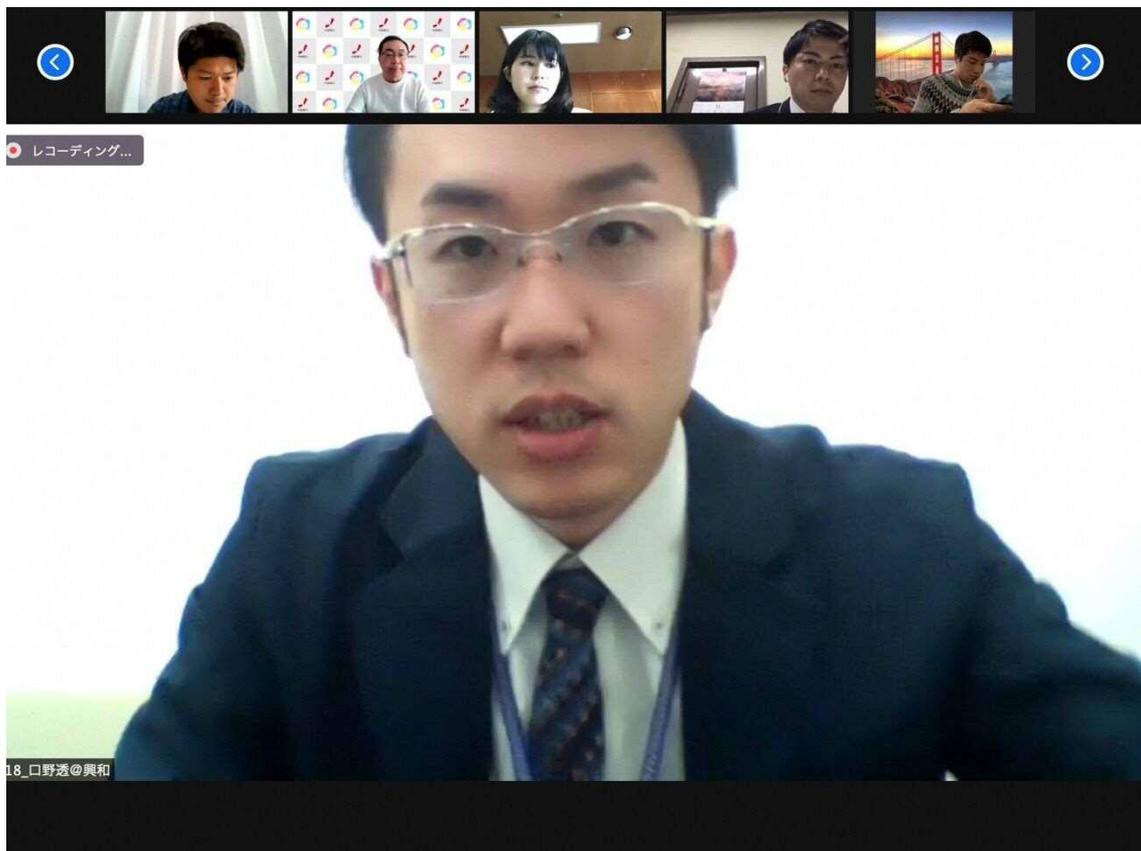
なお、Day5は新型コロナウイルス感染症の影響もあり、10時から17時半までオンラインでの開催となりました。



オープンセッションでの気づきをメンバー全員で共有

引き続き、Slow Innovation 株式会社 加生さんのファシリテーションのもと、Day5 はオープンセッションの振り返りからスタート。メンバーは、各自自分のチームのセッションのほか、他チームのセッションにも自由に参加していましたが、改めて全体でどんな話し合いがなされたのかシェアされました。

それぞれのチームが丁寧に振り返っていく中で、オープンセッション以降、チーム内での議論を深めたり、ゲストとしてお招きした方々との意見交換をしたりという動きもあったようです。



各グループの発表が終了した後、オンラインでのワールドカフェへ。ワールドカフェとは、グループのメンバーを入れ替えながら複数回の対話を行い、多様な人の声のふれることができるワークの手法です。今回は、オンラインでトークルームを分散する機能を使い、チームの異なるメンバーとグループを組んでの対話を 2 回実施しました。各回のテーマは下記の通りです。

【ワールドカフェ 1】 オープンセッションを踏まえた各自の学びの共有

【ワールドカフェ 2】 プロジェクトの方向性や課題、チームを超えてシェアできる各自の

リソースはないか

他チームのメンバーとの対話が久しぶりということもあってか、どこか新鮮さもありつつ、活発な気づき、アイデアの共有がなされました。

**ワールドカフェ1**  
(異なるチームメンバー 4人×9グループ)

**オープンセッションを踏まえ、**

- ・行政視点
- ・企業視点
- ・市民・NPO視点

**での学びは？**

**#シートに是非メモを**

The diagram illustrates a flow of influence. At the top is '4.地域の長期ビジョン 将来のありたい地域の姿'. Below it are two boxes: '6.市民協働(企業) 民間企業の力を把握し発揮できるようにする' and '6.市民協働(市民) 市民のニーズを把握し実現を支援する'. Arrows from these two boxes point to a central circle '5.社会課題(市民ニーズ)'. From this circle, an arrow points to a box '6.民間企業の価値提供', which then has an arrow pointing back to the '6.市民協働(市民)' box, creating a feedback loop.

 SLOW INNOVATION  
Changing systems step by step

9

**ワールドカフェ2**  
(異なるチームメンバー同士 4人×9グループ)

**●オープンセッションで見えてきたプロジェクトの方向性や課題は？**

**●シェアできそうな自組織のリソースは？  
Or シェアしてもらいたいリソースは？**

**#シートに是非メモを**

The illustration shows a woman on the left and a man on the right, both smiling and engaged in conversation. The man is gesturing with his hand as if explaining something.

 SLOW INNOVATION  
Changing systems step by step

## 自分たちの事業構想をより具体的なものへ

お昼休みを挟んで、午後は再び各チームに分かれての議論が中心となりました。最終日となる Day6 に向けて、オープンセッションでの気づきも反映しながら、自分たちのプロジェクト構想をより具体的なものにしていきます。午後の議論の流れは以下のようなもの。

### 1) ビジョンステートメント

「なぜその活動をするのか」「これから何をするのか」「活動の成功をどのようにして確認していくのか」この3つのポイントを言語化する。

### 2) 事業スキーム

「メンバーそれぞれの自組織がもっているリソースをどのように生かしていくか」「自組織にどう関わってもらいたいのか」「チーム以外のどんなリソースが必要か」といった、事業を進めていく上での枠組みを検討。

### 3) 事業フェーズ

これから先、どんな段階を経て自分たちの課題解決を実現していくのか。フェーズ 1 からフェーズ 3 まで、三段階に分けて検討しました。

加生さんからは、東京都渋谷区で落書き問題の解決に取り組む事例を取り上げ、それがどのように進んでいるのかの紹介がありました。各チーム約2時間にわたり、「ビジョンステートメント」「事業スキーム」「事業フェーズ」を順番に議論していきます。また、グループワーク中、チームごとに分けられたオンラインのトークルームを行き来自由な状態にしました。これによって、チームに捉われない動きも多々見えて、メンバー間でのリソースの共有も積極的になされたようです。

## 14:35-15:30(55分) 事業フェーズの立案

- フェーズ1 (短期)
- フェーズ2 (中期)
- フェーズ3 (長期)



事業フェーズまで話し合ったところで、どんな話し合いがなされたか発表がされました。各グループの要点をご紹介します。

### ■ 地域コミュニティ×スポーツ

コミュニティ再生のためにスポーツの力を使い、高齢者の孤立や孤独死などをなくしていく。名古屋独自のスポーツをつくり、「ゆるスポ」としての認定も目指していく。その競技を活用してイベントなどを開催し、ゆくゆくはアジア大会の正式種目を目指せるような、ローカルスポーツの雄を生み出していきたい。

【スポーツ】ナゴヤ30\_Day5\_グループワークシート ☆ 印刷

プロジェクト名：地域コミュニティ×スポーツ (1)

**ビジョンステートメント**

Why? コミュニティでのつながりが薄くなっていると感じる機会が多い。住む場所、地域、コロナ、高齢者など  
What: スポーツの力を使って、「孤立/孤独」を解決したい

**Success Measures**

- ・多くの人が参加する機会を〇回増やせた
- ・イベントを〇回できた
- ・運営が定着した
- ・メディアに〇回載った。地域外の人の関係性/ネットワークが増えた
- ・アジア大会の正式種目に採用された
- ・名古屋市内の各エリアでチームを〇つ。孤立が他の区に比べると解消された
- ・共感する人がどの程度手を挙げてくれるか?

**事業スキーム**

**キーワード**

課題(社協)、場所(スポーツ)、人(サッカー、コーフ、なごや30)、魅力(???、ナゴヤオリジナル)、道具(???、アップサイクル?)、実施(???、なごや30の広域系企業)、イベント (でもスポ、アスカ杯)

**〇社協**

- ・地域、高齢者の情報を提供 (地域課題のお話)
- ・モニターとして当事者の力を巻き込むことが可能

**〇コープボールド**

- ・今いるコープメンバーの参加
- ・具体的なスポーツをつくるにあたり、スポーツクリエイター的な存在が必要か?
- ・スポーツが目的の企画で新しいと感じてもらえるか (なごや30)

**〇市スポ協**

- ・大規模イベントには一歩かもしれないが、他の部署との連携によって、は、とっつきやすいテーマ化も、
- ・スポーツとの関係があるので、世帯別の確保が可能か?
- ・「からスポ」絡みで、障害者スポーツの体験があったので、この辺に ぶっこむ構想

**〇アスカ**

- ・サッカーのメンバーの参加
- ・年1回9月にアスカ杯 (子供向け1400+600観) の場の活用 (ただし、別 谷市)

クリックするとスピーカーノートを追加できます

## ■ つなげるパブリカ

すべての人がつながる社会を目指す。コロナでつながるのが難しくなった人たちを支援する取り組み、主に高齢者へのオンラインツールの普及に取り組んでいく。まずは小規模なイベントや、オンラインツールの解説動画などを作成。そうしたイベントを育て、100万人をつなげるイベントができるまでになる。

## ■ ほっと COCOA

接触確認アプリ COCOA の普及でコロナ対策の成功事例をつくり、名古屋の活性化を目指す。「名古屋はすごい！」といわれるまちにしたい。今後、COCOA の普及に向け、まずは企業、行政、NPO、学校など、100 の団体にプロジェクトに賛同してもらおう。人口の6割がインストールしている社会に向けて、一步一步実績を積んでいく。

## ■ Made in ナゴヤ 30

廃棄物のアップサイクルを通して、SDGs を名古屋に広めていく。まずは人口の1%、2万3000人の認知度アップを目指す。そのために、「環境デーなごや」への出展の企画、アップサイクルのワークショップの開催などの取り組みをしていく。将来的には、SDGs について対話し、意見交換できるコミュニティを作っていきたい。まずは1月の発表に向けて、自分たちが何かひとつ形にする。

【メイドイン名古屋30】ナゴヤ30\_Day5\_グループワークシート ☆ 共有

プロジェクト名：メイドイン名古屋30

<b>ビジョンステートメント</b> Why? 何を目指してこれをやろうとしているのか? WHAT? 何々がこれからの何をやらうとしているのか? Success Measures? この努力が成功したかどうかはどうしたらわかるのか?	<b>SDGs を広めたい!</b> アップサイクルを通して広めていく。 <b>名古屋市SDGs 認知度を1%高める!</b> →そのために名古屋環境DAYに出展をする (2021年8月頃?)
<b>事業スキーム</b>	①他のグループとコラボレーション (外部リソースとコラボ) <b>ラブ・ライブ</b> →ワークショップで作ったユニフォーム、リストバンドなどをナイトウォークで使ってもらおう。 <b>ドリックエ</b> →トヨベットのイベントに乗っかる (捨てるのぼり旗でアップサイクル) <b>ユゴア</b> →ユニフォームのご提供 <b>ゆるスゴ</b> →ユニフォームのご提供 <b>パブリカ</b> →オンラインセッション時にオンラインワークショップの時間をもらう 家にある廃材でアップサイクルを体験する

クリックするとスピーカーノートを追加できます

## ■ LOVE LIFE

名古屋を、相手の想いに寄り添い、生きることを愛せる地域に。LOVE LIFE CITY NAGOYA を目指す。名古屋の印象的なスポットで、参加者同士が他者と思いを分かち合いながら歩く、ナイトウォークイベントを開催。1月の発表までに、一度ナゴヤをつなげる30人のメンバーなどと歩いてみる機会をつくる。

## ■ DREAM QUEST NAGOYA

名古屋を夢であふれるまちにしたい。就職活動の時に、日常生活で人と話す時にも、当たり前前に夢を語りあい、お互いに大事にしあえるまちに。第一歩として、オープンセッションの参加者でもある大学生の就職支援や、企業のリソースを生かしてイベントを企画していく。複数の大学、複数の企業へとコラボレーションを広げていき、ゆくゆくは「名古屋夢まつり」を開きたい。

## ■ いいね！駅西

リニアの開通に向けて、名古屋駅西側のエリアのイメージアップを。清掃イベントの開催、地元のまちづくり団体との連携。地域でつながりをつくり、より多くの人を巻き込みながらコミュニティを育てていく。すでに地元にある活動の応援や発信、空き物件の活用にもチャレンジ。駅西に関わる人が増え、その人たちと一緒に継続的に地域を動かしていきたい。

【駅西】ナゴヤ30\_Day5\_グループワークシート ☆ 田 田

プロジェクト名: いいね！駅西 (1)

**ビジョンステートメント**

Why? なぜならこれやりたいか? What? 何から何をやるか? Success Measures? この夢が実現したらどうしたらいいか?

Why: リニア開通向け、駅西を「世界に冠たる名古屋」に相応しい誇れる玄関口に！  
What: ①街のイメージ・バリューアップ (清掃活動、街灯キレイに・統一など)  
②駅西に来る、使う機会をつくる (イベント)  
③地元のリソース (人・モノ・金) をつなげる (協議会・町内会との連携、協働)  
④持続的に活動するためのコミュニティづくり

Success Measures: 街がキレイになった。違法駐車が減った。  
駅西に来る人が増えた。駅西で働く人が増えた。  
「いいね！駅西プロジェクト」に加入している企業数・参加者が増えること? (場合によっては街協)

**事業スキーム**

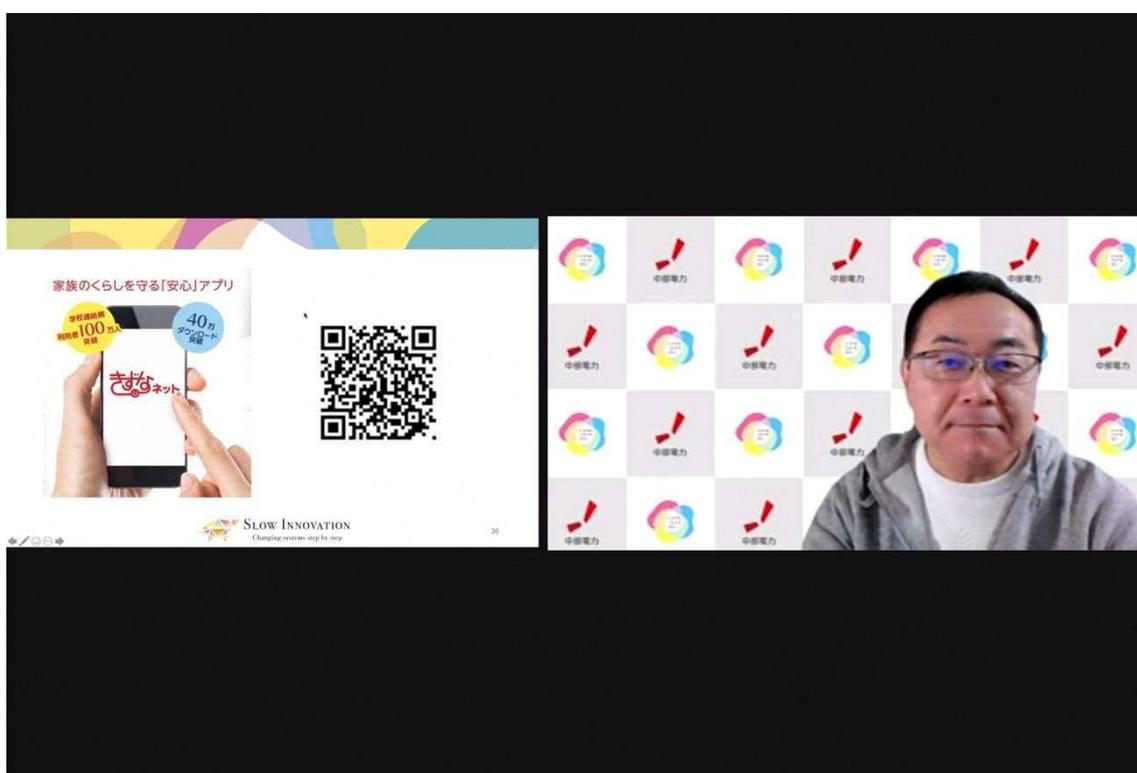
機材: 宿泊施設、レストランなどサービス施設の運営、イベント参加者の健康管理 (IoT)、小売店運営、グランピング運営  
安井建築: 街路灯等の公共物のデザイン・事業費概算の算出、施工者の紹介、再開発に向けた方針提案・事業性等の検証 (法的条件整理等)  
白壁設計: 街灯デザイン・監視カメラ等の企画・技術提供、パブリックスペースを活用したイベント企画 (PARKPACK: <https://utrapublic.jp/parkpack/>)、イベントへの社員参加、駅西街づくり構想検討、公共空間デザイン (駅前広場、リニア上空広場など)、駅西での再開発事業コンサル (建築設計・事業推進)、エアーマネジメントのコンサル (組織づくり、運営)  
天証: 清掃活動等のイベントへの人集め、街づくりを事業化する際のファシリテーター (建設、エネルギー、食料等様々な事業をやっているの必要に応じて対応します。)  
DMC: イベント企画制作、PR戦略の立案、駅西オフィスとしての社員の企画参加、学生主体の企画運営のファシリテーター  
中目録: 紙面での発信  
マツバラ: 小中学生、その保護者への広報とヒアリング・SNS広報  
中村区: 地元とのパイプ役 (エキニスタウ会議等の開催)  
※: 株式会社 野村建設 (不動産内装修繕 (前期))

クリックするとスピーカーノートを追加できます

さらに、それぞれの発表の中には、他チームとのコラボレーションのアイデアもいくつも盛り込まれていました。例えば、「つなげるパブリカチームと連携してオンラインイベントを開催する」「Made in ナゴヤ 30 チームのアップサイクルグッズを LOVE LIFE チームのイベントで使用する」など。7つのチームがバラバラに動くのではなく、メンバー全員がひとつのチームとなってお互いの活動を後押ししようとする動きがみえてきました。さらにこの後、各チームどんなファーストアクションを実行するかが話し合われ、ネクストステップをすり合わせて議論を終えました。

## 中部電力 浦野さんより新規事業推進のお話を

Day5 の最後に、Day1 からオブザーバーとして活動を見守り、アドバイスをいただいている中部電力の浦野さんから、社内新規事業を推し進めた実体験をお聞きしました。100 万人以上のユーザーを有する「学校連絡網サービス」の事業に携わり、世に広めてきた浦野さん。中部電力にあって、電力事業とは異なる新たな事業を進める上で、どんな壁や課題と向き合ったのか、ブレイクスルーがどのように起きたのか、社内外の人たちがどのように巻き込まれていったのか。この先、自分たちのプロジェクトに自組織のリソースを活用していく上でも大切なことを、浦野さんの経験談から学ばせていただきました。



「ナゴヤをつなげる 30 人」第 2 期も Day6 を残すのみとなりました。半年間の対話がどんなプロジェクトとして実を結び、今後につながっていくのか。ぜひ最後までチェックしてください。